

7.21 → 10.26



慶長遣欧使節出帆400年記念事業

海のまちと帆船の希望

7月21日(祝・月)は、
海の日のため入館無料!!

◎企画展示

- ・慶長使節派遣と慶長大津波
- ・「サン・ファン・バウティスタ」と石巻の人びと
- ・震災を乗り越えたサン・ファン・バウティスタ

◎シンポジウム

第一部「海と向き合う人々の民俗学」

10月25日(土)

場所/サン・ファン館 セミナールーム

◎企画展パネル巡回展

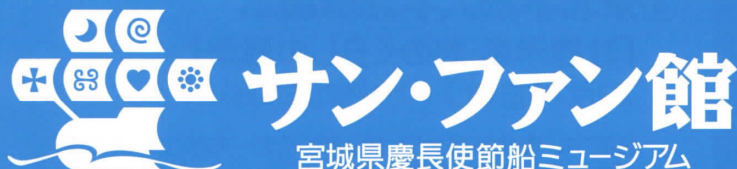
◎東北学院大学連携展示

「牡鹿半島・海のくらしの風景」

10月11日(土)～26日(日)



慶長使節船「サン・ファン・バウティスタ」(宮城県慶長使節船ミュージアムに展示公開中)



〒986-2135 宮城県石巻市渡波字大森30-2

☎ 0225-24-2210

URL <http://www.santjuan.or.jp/>





E-mail info@santjuan.or.jp

【入館料】 一般700円(高校生以下無料)

【開館時間】 午前9時30分～午後4時30分※8月中は午後5時30分まで
(最終入館は閉館30分前まで)

【休館日】 毎週火曜日(祝祭日を除く)

■主催: 宮城県慶長使節船ミュージアム(愛称:サン・ファン館) 公益財団法人慶長遣欧使節船協会

■後援: 宮城県、石巻市、河北新報社、石巻かほく、石巻日日新聞社、 仙台放送局、TBC東北放送、 仙台放送、 テレビ、 NHK東日本放送、ラジオ石巻FM76.4



海のまちと希望の帆船

概要

慶長使節出帆の地である宮城県石巻市は、2011年の東日本大震災で最大級の被害を受け、同地に位置する当館も、沿岸部の施設が大津波の直撃を受けるなど甚大な被害を受けました。奇しくも、石巻は東日本大震災からちょうど400年前の慶長16年(1611)にも、慶長大地震による今回の大震災と同規模の甚大な被害を受けていたのです。

使節出帆と同じ地で震災被害を受け、2年後に再開館を果たした当館だからこそ、慶長使節の派遣には仙台藩の復興的意図が込められていると確信しました。震災という困難を乗り越え出帆したサン・ファン・パウティスタ号は石巻の人々にとってまさに「希望の帆船」でした。そして、現在では震災を乗り越え復活した復元船「サン・ファン・パウティスタ」が復興のシンボルとして「希望の帆船」の役割を果たしています。

「慶長18年(1613)に行われた海外への使節派遣は、貿易によって人や物の流れを作り、震災で傷ついた領土の活性化を図ったのではないか」という慶長使節派遣に込められた意図、そして復元船の修復の様子を通して、大事業が行われた地元石巻への誇り、困難に負けず勇気と希望を持って未来へ進むことの大切さについて後世に伝えるため、パネル・資料等を用いて紹介を行います。

企画展示

慶長使節派遣と慶長大津波

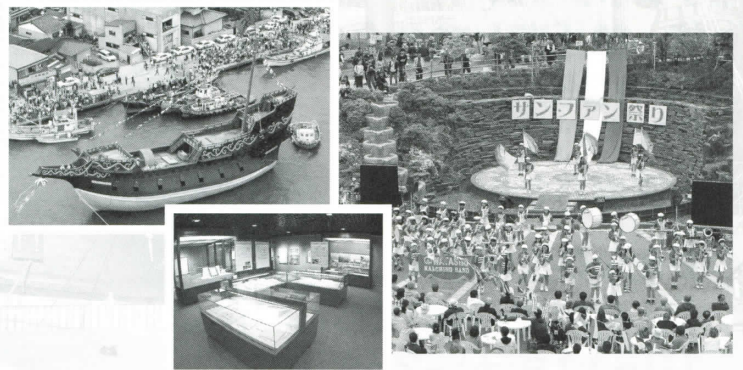
東日本大震災後、石巻を含めた仙台藩の過去の災害が大きくクローズアップされるようになり、その中でも確実に研究が進む1611年の慶長大津波と、1613年の慶長使節派遣(サン・ファン・パウティスタ出帆)との関連についてパネル等を用いて解説いたします。

「サン・ファン・パウティスタ」と石巻の人びと

いつでもサン・ファン・パウティスタは石巻の人々の生活と共にありました。復元船の建造への熱い想いや、サン・ファン・パウティスタを通して見る石巻市民の姿、各事業等を通してのサン・ファン館との関わり等について当館記録の貴重な資料等を元に振り返ります。

震災を乗り越えたサン・ファン・パウティスタ

2011年の東日本大震災では押し寄せる大津波を乗り越えながらも、その後の暴風によりマスト折損などの被害を受けた復元船。サン・ファン館の再開館と共に、多くの希望を背負いながら復興のシンボルとして元の姿を取り戻すまでの歩みを当館記録の写真等を元に紹介します。



関連企画

①シンポジウム

第一部 石巻会場 10月25日(土)
「海と向き合う人々の民俗学」

場所：宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)
セミナールーム

講師：成城大学文芸学部教授 小島孝夫 氏
国立歴史民俗博物館特任助教 葉山 茂 氏
東北学院大学文学部准教授 加藤幸治 氏
東北歴史博物館副主任研究員 小谷竜介 氏

第二部 気仙沼会場(詳細未定)

※決定次第当館ホームページ等でお知らせします。

②企画展パネル巡回

シンポジウム 第二部(気仙沼会場)で
実施予定

③東北学院大学連携展示

「牡鹿半島・海のくらしの風景」
10月11日(土)～10月26日(日)

会期中、東北学院大学民俗学ゼミナール学生による聞き書き調査を実施します。